

平成30年9月21日

陸前高田市議会議長 伊藤明彦様

総務常任委員会委員長 菅原 悟

平成30年度 管外行政視察報告

総務常任委員会の管外行政視察の概要は、下記のとおりでありますので報告します。

記

1 期 間 平成30年8月1日（水）から
平成30年8月3日（金）まで

2 行政視察地及び研修項目

(1) 株式会社 サロンドロワイヤル

ピーカンナッツと観光産業との関わりについて

(2) 大阪府大阪市（人口2,724,007人 H30.8.1現在）

災害発生時の防災備蓄、防災体制と自主防災組織の役割及び防災アプリについて

(3) 岐阜県多治見市（人口111,235人 H30.8.1現在）

多治見市総合計画の策定手法について

3 出張委員 委員長 菅原 悟 副委員長 大坂 俊
委員 中野 貴徳 委員 菅野 定
委員 福田 利喜 委員 藤倉 泰治
随 行 石川 聖恵（主任）

4 行政視察概要 別紙報告書のとおり

総務常任委員会行政視察報告

総務常任委員会では、今後策定される陸前高田市まちづくり総合計画の策定手法やそれに基づく観光産業振興施策、加えて、震災の経験を後世に伝え継承しつつ、今後の備えとしての防災備蓄の有り方などの調査研究のため、大阪府大阪市と岐阜県多治見市を訪ねて行政視察を行った。

株式会社サロンドロワイヤル

大阪市内にある株式会社サロンドロワイヤル本社工場内の視察及びピーカンナッツに注目し、それを主軸とした地方創生に携わる経緯を、前川眞智子社長より説明を受けた。説明する前川社長の思いを伺い、株式会社サロンドロワイヤル（ゴールデンピーカン株式会社）がピーカンナッツと本市の雇用創出、産業振興への熱意を感じたところである。

具体的な説明から、このピーカンナッツ事業は、本市の農業の再生と雇用の創出、さらには、地域の創生と高齢化による社会的課題を解決することを目指しているとのこと。ピーカンナッツは、栄養価に優れ、抗酸化物質が豊富であることから、抗酸化物質の性質により、老化を遅らせるアンチエイジング効果や生活習慣病、認知症予防に効果があるとも考えられているため、高齢化社会の現代にとって救世主となる可能性も秘めているとのことであった。

また、観光と農業を柱とした本市での事業展開の構想について伺い知ることができ、具体的な将来像として、滋賀県近江八幡市にあるラコリーナという観光施設を紹介され、進むべき方向を示された点は、今後の展開に心強さを感じた。

大阪府大阪市

本視察の目的の一つである防災備蓄品の状況は、とてもきめ細かな対応を行っていた。また、消費期限等があるものについては、様々な活用をし、給食等への活用や防災訓練等の際に市民へ提供するなど、実際に必要となった場合に戸惑うことがないと思えるような対応がなされていた。これは、提供する側だけではなく、提供を受ける側にも事前の心構えができるのではないかと感じた。

食糧をはじめとする様々な物資の供給体制についても、多くのサプライチェーンと提携を結んでおり、その際にどのような災害がどこで発生しても対応ができるよう複数の供給体制をシミュレーションし、ルートの確保をしていたことに感心させられた。

また、大阪市が持つ地形の特性を十二分に理解し、風水害の際にかかる対応や避難場所、高台が少なく、ほとんどが低地であり、山もないことから、想定される東南海トラフ地震による津波の際の避難方法など、災害に即した対策を立てていた。

ライフラインの被害想定、復旧に要する期間と対応策などについてまとめられていた。さらには、先般の大阪北部地震を基に、職員の体制についても計画と実際の対応について検証し、即座に修正すべき点の把握や実際の職員の動き、対応時間について検証されるなど、より効果的な非常時対応の計画作りに即座に取り組む対応は、見習わなければならない点であると感じた。しかし、南海トラフを震源とした津波対策の説明も受けたが、津波到達予想時間は約 110 分と思ったより長い時間の設定だったことが意外であった。

人口 270 万人を抱える大阪市が、我々の視察に対し過分とも思われるような、懇切丁寧に対応には驚きとともに感謝の意を抱いた。

岐阜県多治見市

多治見市では、総合計画の策定手法について視察を行った。法定策定義務がなくなった総合計画に対し、多治見市では、市の最上位計画として策定を義務付け、基本構想及び基本計画について議会の議決要件を多治見市市政基本条例で定めており、行政の根拠として条例で位置付けていることに関し、本市においても行わなければならないものであると再認識した。

多治見市総合計画策定に当たり、執行部から計画案の提案を受けて審査するだけではなく、議会として「第 7 次総合計画策定特別委員会」を全議員構成で設置し、分科会において事業ごとの詳細な議論と議員間討議により議会としての追加修正などを行い、あわせて、各議員の政策の実現を目指すため、各議員から総合計画に掲載すべき公約（政策）を「議員一人一提案」として取りまとめ、市長に対し提案を行うなど、受け身ではない計画策定をされていた。

総合計画策定に当たっては、市民委員などからなる委員会において、市民、議会及び職員が討論する基として「討議課題集」を作成し、解決すべき課題を市民、議員、職員が共有しており、自分たちのまちの課題解決のための計画を市が総力を挙げて取り組んだ様子が見えた。

また、多様な市民ニーズを把握するため、事業評価委員会、市民委員会、審議会、児童生徒アンケート、未来提言会議、市民提言会議及びパブリックコメントなどが行われており、うたい文句ではない多様な市民参加がなされており、本市でも見習うべ

き点であると強く感じた。

多治見市の視察を通じ、市民、議会、職員の関係性やそれぞれの立場での役割など、改めて市政というものを再認識させられた視察であった。

多治見自警団

多治見市議会での行政視察において、多治見自警団の松島団長から挨拶と報告を受けた。震災後、毎年、広田湾漁協から海産物を 466 名の会員が購入することにより、被災地支援をしており、それを 10 年間継続するということであった。

陸前高田市で被災者の声を聞き、海産物購入の支援に至り、「ひろた基金」という継続した体制が出来上がった。このような支援体制は、全国的にも余りなく、改めて敬意を表したい。

自警団の主活動である多治見市内での活動にも驚かされた。徒歩による夜間巡回パトロールは、3 名 1 組で 12 ルートで行われ、危険箇所改善、飲料水備蓄、エコストーブ作成など多岐にわたっていた。地元での活動、被災地への支援、改めて頭が下がる思いだった。

以上、今回の管外行政視察では、本市事業に関連している企業 1 社と、災害関連として大阪市を、そして、現在策定作業が行われている総合計画について、岐阜県多治見市を訪問した。

本市で行っている事業について予算審議を通してだけでなく、もっと詳しく私たち議員も調査活動が必要だと感じた。特に、ピーカンナツ事業については、行政が担うべきもの、民間事業者が担うべきものを理解し、今後の事業の展開に注視すべきものと感じた。

大阪市における災害対応について、先の大阪北部地震の経験を即座に P D C A サイクルを導入し、対応策の実行において改善されていたことなど、スピード感を感じたこと。また、多治見市では、オール市民で自分のまちの将来を考え、計画策定までのプロセスに市民、行政、議会がそれぞれの立場で自らが動いていることに感心させられたことに加えて、企画部長と議会事務局長として両面から計画づくりに携わった方から、率直な話を聞く機会を持てたことも視察に厚みを加えることができたと感じている。

いずれにしても、今回の視察を通して、本市議会でも取り入れることができるものがあることを改めて感じたところである。